

2025年もあっという間にひと月が過ぎてしまいました。暦の上ではもう春です。いるか組の 卒園までの日数を数える日めくりカレンダーには“あと 23 日”と記され時が止ってほしいという願いとは裏腹に淡々と刻む時計の針に現実を痛感しています。

今年は 警報級の大寒波が襲来し、大きな不安と恐怖の中、大変なご苦勞を強いられ生活されている方々に謹んでお見舞いを申し上げます。長年 新潟に住む友人から届いた窓からの光景の写真は 想像をはるかに絶するものでした。大自然の脅威を改めて思いより一層の神様の平安とお守りがいつもありますよう皆と一緒に祈り続けて参ります。

4月から全体礼拝の中で語ってきた 聖書の出来事のおはなしが、クリスマス以降は旧約聖書から新約聖書へと移行しました。イエス・キリストが 人として生きる姿や、神様の存在やその愛を伝え 語られた言葉などを子ども達にわかり易く語っています。クリスマスにお祝いした赤ちゃんイエスさまを身近に感じていた子ども達は、更なる親近感を覚えながら 楽しそうに毎週の全体礼拝を心待ちにしながら、そのおはなしの一話一話に目を輝かせ それぞれイメージを膨らませながら 夢中で耳を傾けています。

“イエスさまが30歳の時、人々へ神様の愛を伝えるため 伝道者の仕事を始めるよう 神様から召命を受けますが、その前に 責任のある重要な新しい道を歩む備えとして、自分の心と向き合う祈りの時を命じられます。たった一人 孤独の中で高い山に登り、神様へ心を献げ、ただひたすら祈りに徹するよう 神様の導きを受けたイエスさまは、何も無い山の頂上で 四十日四十夜、断食をしながら 空腹と睡魔や 孤独の闇と闘い、邪念を振り払い、人としての心のあらゆる欲に苛まれつつ ひたむきに祈り続けます。そんなイエスさまのところへ悪魔が近づいて来ました。悪魔は 誰よりも神様を畏れ、神様の偉大さを知っていました。そして イエスさまが神様のひとり子であることもわかっていました。悪魔は、これから人々のために 神様の仕事をするイエスさまを何とかして墮落させて邪魔しようとして企み、3つの誘惑を 耳元で巧みに囁くのでした。

- ① あなたが ほんとうに神の子だというなら、目の前に転がっている石ころをパンに変えられるでしょう。それを食べておなかをいっぱいにしてみなさい。
- ② さあ！ 今、この高い山から飛び降りてごらんなさい。あなたが ほんとうに神の子だというのなら、きっと神様が天使達に命じて救ってくれるはずです。
- ③ わたしの前に ひれ伏して わたしを拝んでごらんなさい。そうすれば 神が創ったこの素晴らしい世界を すべてあなたのものにしてあげますよ。

ところがイエスさまはこれらの誘惑を祈りと聖書の言葉を用いて悪魔を退けました。

- ❶ 人はパンだけで生きるのではなく神の口から出る言葉による。(申命記8:3)
- ❷ あなたの神である主を 試みてはならない。(申命記6:16)
- ❸ あなたの神である主を拝み、主にのみ仕えよ。(申命記6:13)

この聖句を聞いた悪魔は 即座に離れて行き、二度と現れることはありませんでした。

悪魔の誘惑に勝ったイエスさまは祝福を受け、仕事を始めることを許されました。”子ども達はいつの時代も この『悪魔の誘惑』のおはなしが なぜか 大大…大好きです。イエスさまが どんなに甘い言葉で誘われても 祈り、聖書の言葉によって心を強くし、悪魔を見事に一蹴できた時の子ども達の顔は 誇らしげで、まるで自分のことのように喜びと安堵に満ちた表情をしています。その夢中で聞き入る様子を見ていると 何だか子ども達は、悪魔という存在が自分達の心の中に もともと在るものと受け入れているように感じます。まっすぐな心で物事を捉えて 善と悪との葛藤を感じているからこそ、悪魔の誘惑と闘うイエスさまの心を 大人以上に理解し 共感できるのかもしれませんが。幼い頃から、自分の命の源であり 自分のすべてをわかっている大きな存在を知り、どんな誘惑をも退けようと祈り願いながら生きる心は 何よりも強く大らかです。子どもの想いを大切に いつも寄り添い 幼い心を温かく育む者在りたいと思います。

「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。(伝道者の書 12:1)」 (石田 記)